

令和4年度

すくすくウォッチ

(大阪府小学生学力テスト)

結果概要

交野市教育委員会



おりひめちゃん

1 目的

子どもたち一人ひとりが自らの強み等を知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。

2 調査を実施した児童数

- 5年生 67,425人(交野市:9校 593人)
- 6年生 68,333人(交野市:9校 669人)

3 実施内容・実施日

- 実施内容 5年生 国語、算数、理科、わくわく問題(教科横断型問題)、アンケート
6年生 わくわく問題(教科横断型問題)、アンケート
- 実施期間 令和4年4月18日～26日 ※期間内で学校が実施日を決定

4 各教科・わくわく問題(教科横断型問題)及びアンケートについて

- 各教科について
 - 【国語】・言語能力・読解力の基盤となる、基礎的基本的な言葉等の理解を問う問題
・文章に書かれている意味を正確に捉える力(リーディングスキル)をはかる問題
 - 【算数】・数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を問う問題
 - 【理科】・理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことや、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を問う問題
- わくわく問題(教科横断型問題)について ※5・6年生ともに同じ問題
 - ・日常の活動や現代的な諸課題(SDGs、プログラミング的思考)等をテーマにした問題
 - ・教科の枠を超えて文章やグラフ等の様々な資料を題材に、問題をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題
- アンケートについて
 - ・これからの予測困難な社会を生き抜くために必要な、テスト等では測れない子どもの力を問う項目
 - ・授業での活動、学級活動、家庭での状況、子どもの好奇心等を問う項目

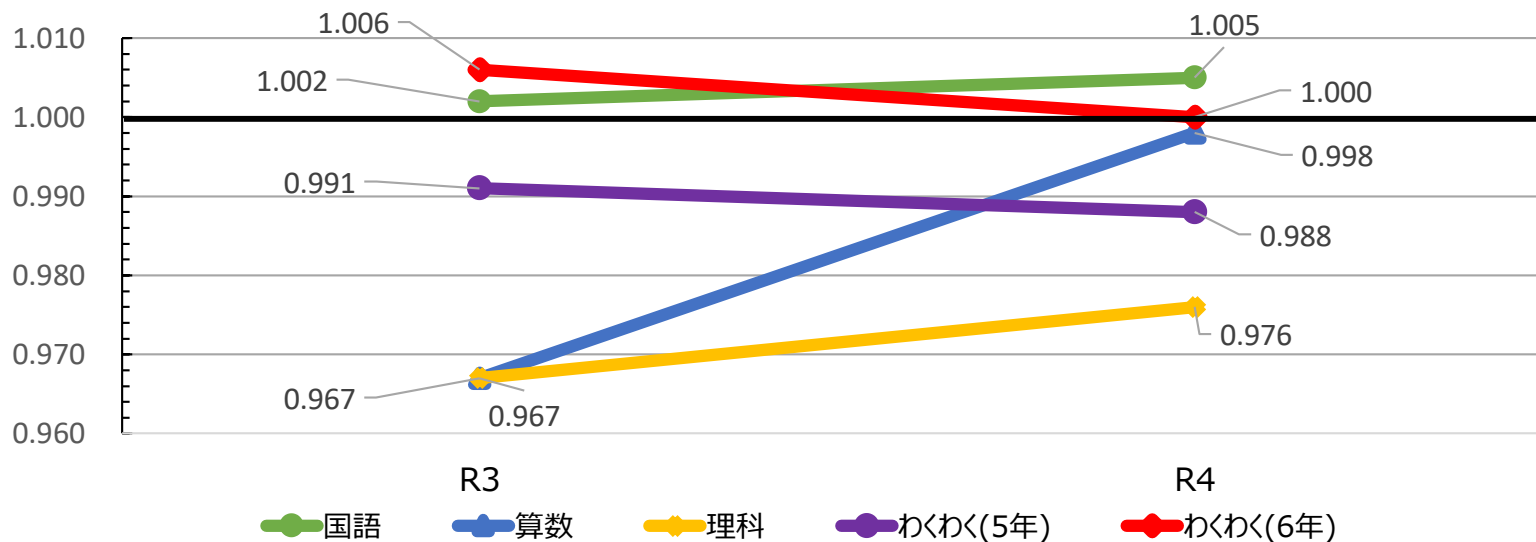
平均正答率 (%)

対大阪府比 = 市の平均正答率 ÷ 大阪府の平均正答率

学年	教科等	問題数	交野市	大阪府	大阪府との差	対大阪府比
5年生	国語	20	77.2	76.8	+0.4	1.005
	算数	7	41.9	42.0	-0.1	0.998
	理科	9	70.5	72.2	-1.7	0.976
	わくわく問題	9	59.3	60.0	-0.7	0.988
6年生	69.1		69.0	+0.1	1.000	

対大阪府比の経年変化

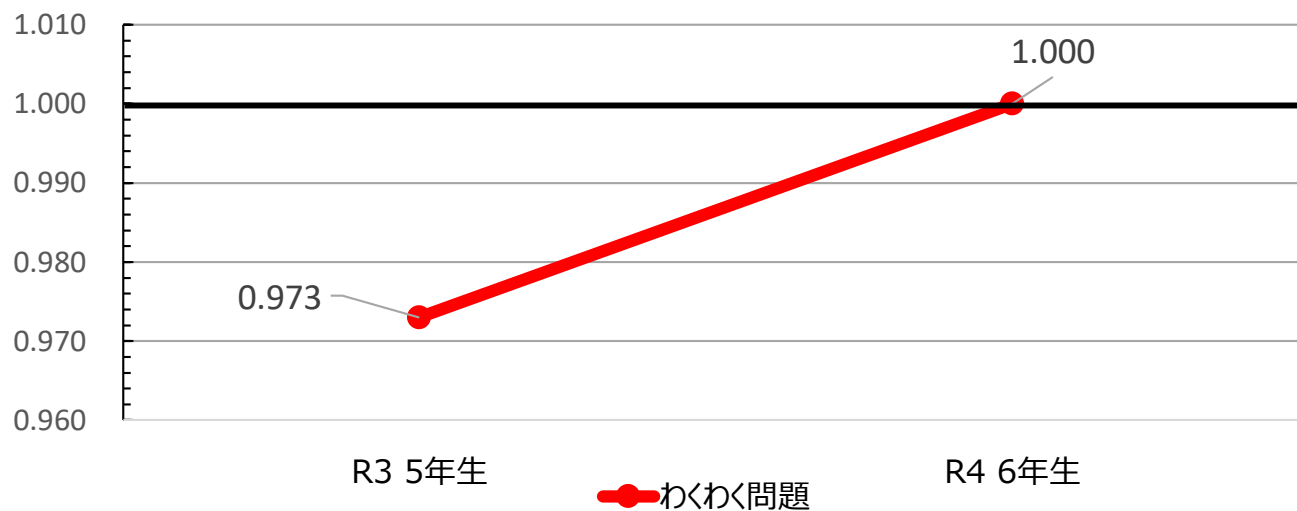
大阪府の平均正答率を1.000としたときの、市の各教科等の平均正答率の推移



わくわく問題の平均正答率

学年	教科等	問題数	交野市	大阪府	大阪府との差	対府比
R3 5年生	わくわく問題	10	54.6	56.1	-0.5	0.973
R4 6年生		9	69.1	69.0	+0.1	1.000

対府比の経年変化



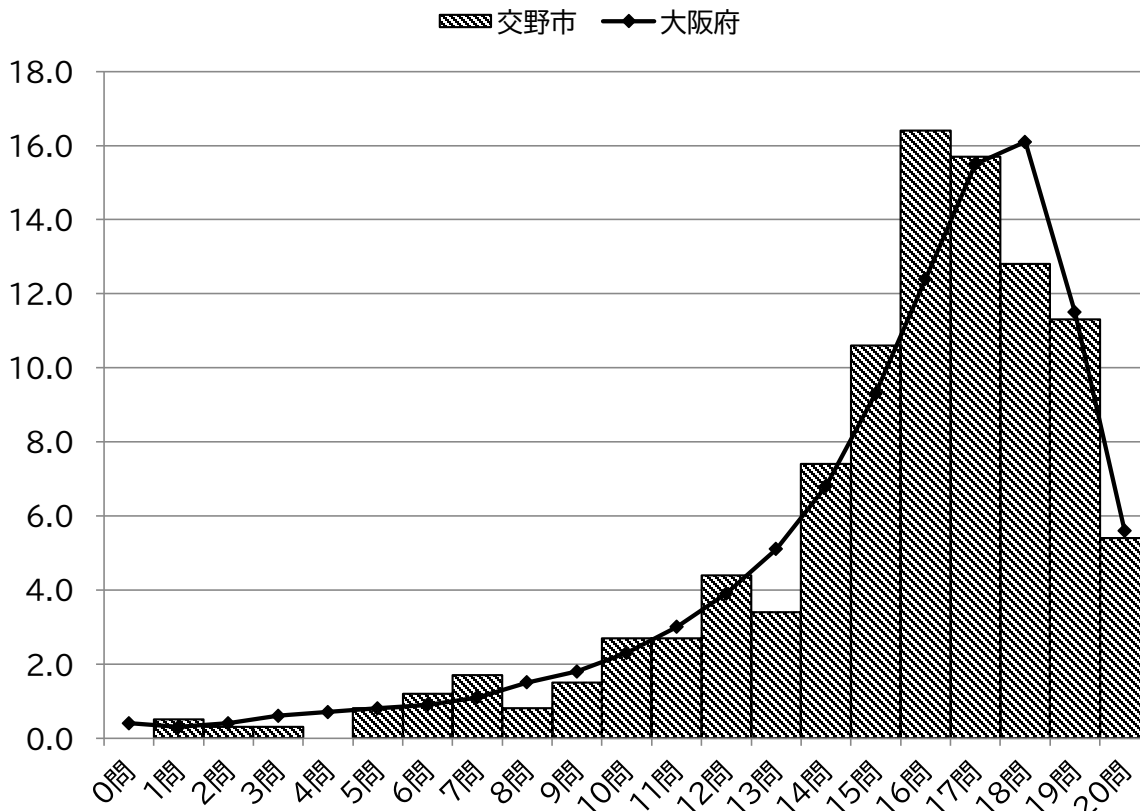
国語(5年生)

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題 数(問)	平均正答率(%)		
			交野市	大阪府	
全体		20	77.2	76.8	
学習指導要領の 領域等	知識及び 技能	(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	17	82.2	80.6
		(2)情報の扱い方 に関する事項	1	85.3	84.5
		(3)我が国の言語文 化に関する事項	2	30.8	40.6
	思考力、 判断力、 表現力 等	話すこと・聞くこと	—	—	—
		書くこと 読むこと	5	75.6	73.8
評価の観点	知識・技能		20	77.2	76.8
	思考・ 判断・ 表現	話すこと・聞くこと	—	—	—
		書くこと 読むこと	5	75.6	73.8
	主体的に学習に取り組む態 度		—	—	—
問題形式	選択式	10	75.8	77.2	
	短答式	10	78.6	76.4	
	記述式	—	—	—	

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
交野市	593	15.4	77.2	16.0	3.5
大阪府	65,835	15.4	76.8	16.0	3.8

国語(5年生) 課題の見られた問題

5 次の(1)と(2)のことわざや故事成語の表す意味として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中からそれぞれ一つ選びましょう。

出題の趣旨 ことわざの意味を正しく理解する

(1)雨降って地固まる

- 1 雨が降ると、地面は一度柔らかくなってからだんだんと固くなる。
- 2 良くないことが起きたときは、続けて良くないことが起きる。
- 3 小さなことでも根気よく続けていけば、いつか良い結果になる。
- 4 もめごとがあったあとは、かえって前よりも良い状態になる。

解答類型	交野市(%)	大阪府(%)
1を選択	45.5	40.8
2を選択	15.5	14.1
3を選択	16.7	17.0
4を選択 (正答)	<u>20.2</u>	26.1

出題の趣旨 故事成語の意味を正しく理解する

(2)五十歩百歩

- 1 やりすぎてしまうことは、たりないことと同じくらいよくないこと。
- 2 少しの違いがあっても、実際はほとんど同じであり差がないこと。
- 3 あまりにも違いが大きいのので、わざわざ比べるまでもないこと。
- 4 五十歩歩いてから、さらに歩いていけば百歩になること。

解答類型	交野市(%)	大阪府(%)
1を選択	7.4	5.8
2を選択 (正答)	<u>41.3</u>	55.0
3を選択	12.8	11.8
4を選択	36.1	25.1

ことわざや故事成語の意味を正しく理解することに課題が見られた。日常生活で本を読んだり、言葉の意味を調べたりするなどの活動が十分ではないと考えられる。

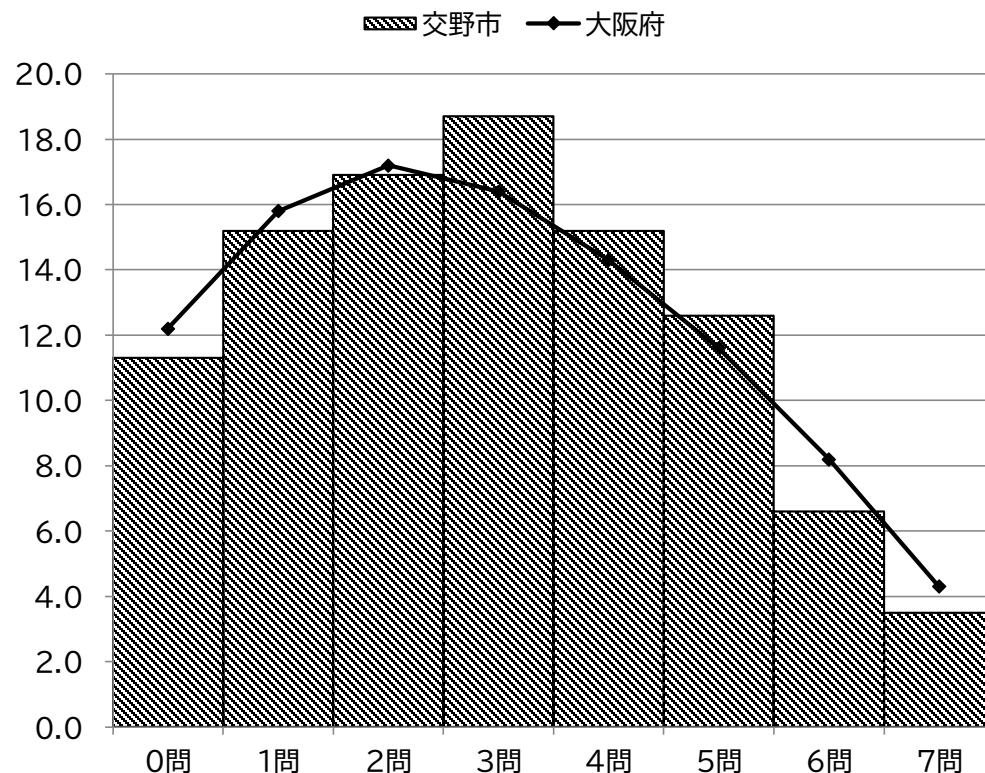
算数(5年生)

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数(問)	平均正答率(%)	
			交野市	大阪府
全体		7	41.9	42.0
学習指導要領 の領域	数と計算	2	39.9	38.7
	図形	3	35.1	37.3
	測定/変化と関係	3	47.2	46.2
	データの活用	1	46.5	43.4
評価の観点	知識・技能	6	42.1	42.0
	思考・判断・表現	2	28.7	29.8
	主体的に学習に取り 組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	1	46.5	43.4
	短答式	4	47.3	47.7
	記述式	2	28.7	29.8

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
交野市	593	2.9	41.9	3.0	1.9
大阪府	65,839	2.9	42.0	3.0	2.0

算数(5年生) 課題の見られた問題

2 (2) 出題の趣旨 使うブロックの数が一定の時、縦に置くブロックの数と横に置くブロックの数の数量の関係を式で表す

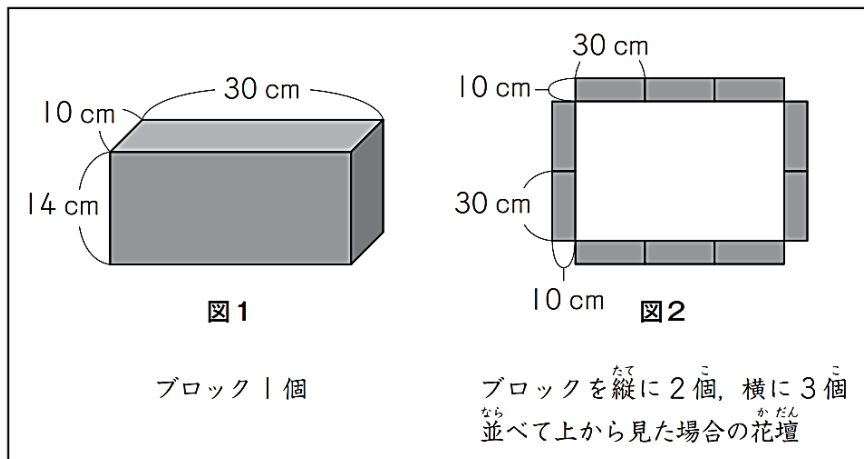


図1

ブロック1個

図2

ブロックを縦に2個、横に3個
並べて上から見た場合の花壇



ひろこ

例えば、縦に置くブロックの数を1個にすると、この図のように横に置くブロックの数は5個になりますね。



縦に置くブロックの数を2個、3個...と増やしたとき、横に置くブロックの数がそれぞれどうなるか、考えたらよいですね。



かずや

【縦と横に置くブロックの数】

縦に置くブロックの数 (個)	1	2	3	4	5
横に置くブロックの数 (個)	5	4	3	2	1

ひろこさんは、縦に置くブロックの数と横に置くブロックの数の関係を表す式を次のように考えました。

【ひろこさんの考え】

縦に置くブロックの数を○個、横に置くブロックの数を□個として、○と□の関係を式に表すと、になります。

【問い】上の【ひろこさんの考え】のにあてはまる式を書きましょう。

【正答例】 $\bigcirc + \square = 6$

解答類型	交野市(%)	大阪府(%)
$\bigcirc + \square = 6$ (同値の式含む)	33.4	38.0
$\bigcirc + \square = 6$ 以外 の数	2.5	3.8
上記以外 (無解答を除く)	48.4	44.8

数量の関係を式で表すことに課題が見られた。自分で立てた式にどんな意味があるのかを言葉で説明するなどの活動が十分ではないと考えられる。

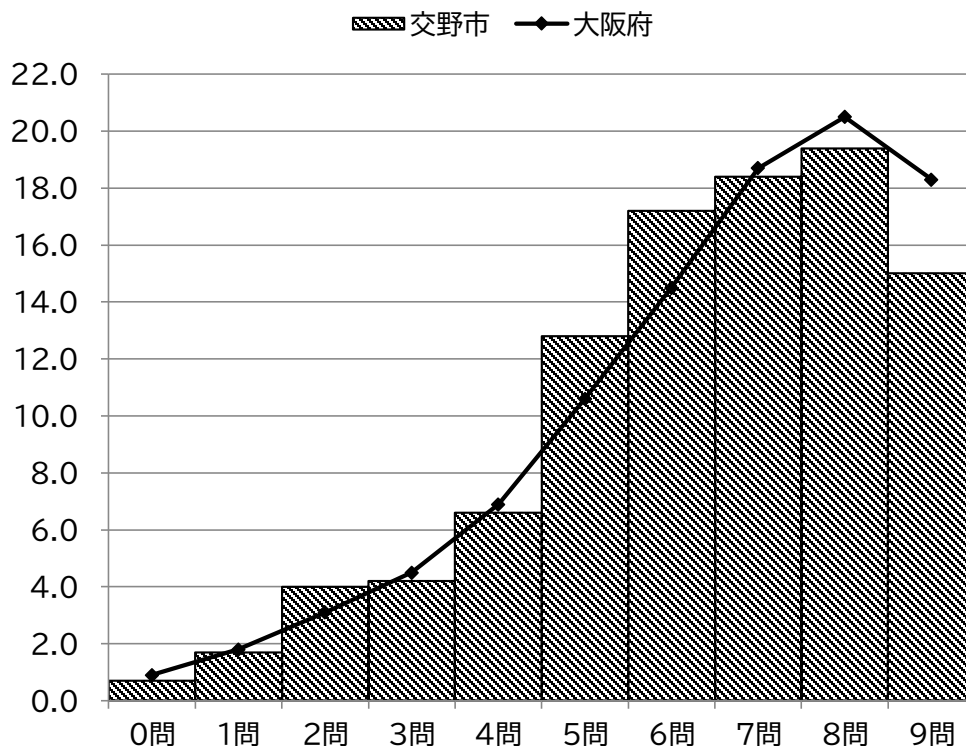
理科(5年生)

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数(問)	平均正答率(%)	
			交野市	大阪府
全体		9	70.5	72.2
学習指導要領 の領域	物質	—	—	—
	エネルギー	4	66.7	70.2
	生命	—	—	—
	地球	5	73.7	73.8
評価の観点	知識・技能	7	68.0	70.3
	思考・判断・表現	5	75.8	77.3
	主体的に学習に 取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	4	71.2	73.3
	短答式	3	63.8	66.4
	記述式	2	79.4	78.6

※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
交野市	593	6.3	70.5	7.0	2.1
大阪府	65,910	6.5	72.2	7.0	2.1

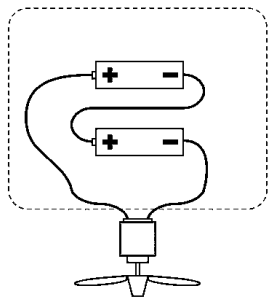
理科(5年生) 課題の見られた問題

1 (4) 出題の趣旨 2つの乾電池を用いるとき、電流が大きくなる導線のつなぎ方を理解し、図で表現する

【問い】

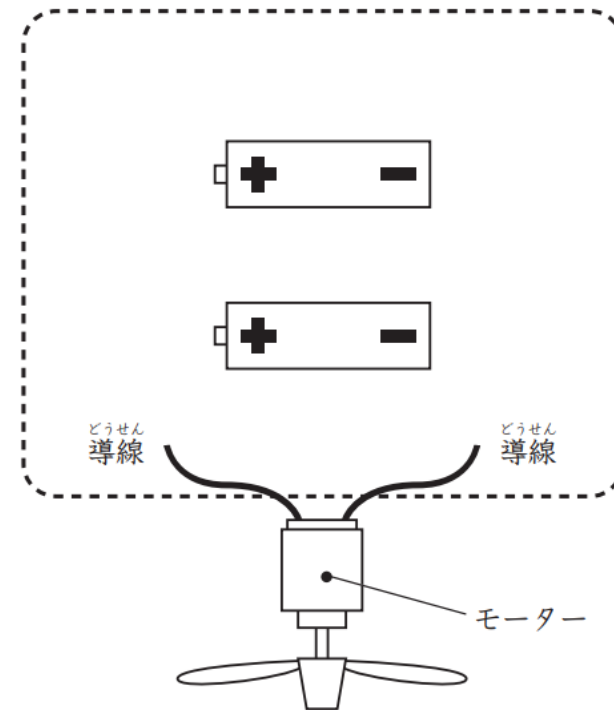
たかしさんは、電流が大きくなり、モーターがより速く回る2個の乾電池のつなぎ方を見つけました。たかしさんが見つけた2個の乾電池のつなぎ方を、解答欄の の中にある、2本の導線の続きにかき入れて完成させましょう。また、そのつなぎ方を表す言葉を書きましょう。

【正答例】



直列つなぎ

解答類型	交野市(%)	大阪府(%)
図…直列つなぎ、言葉…直列つなぎ	15.9	21.8
図…直列つなぎ、言葉…並列つなぎ	2.4	2.0
図…並列つなぎ、言葉…直列つなぎ	4.2	4.3
図…並列つなぎ、言葉…並列つなぎ	2.7	5.6
上記以外(無解答を除く)	70.7	61.8



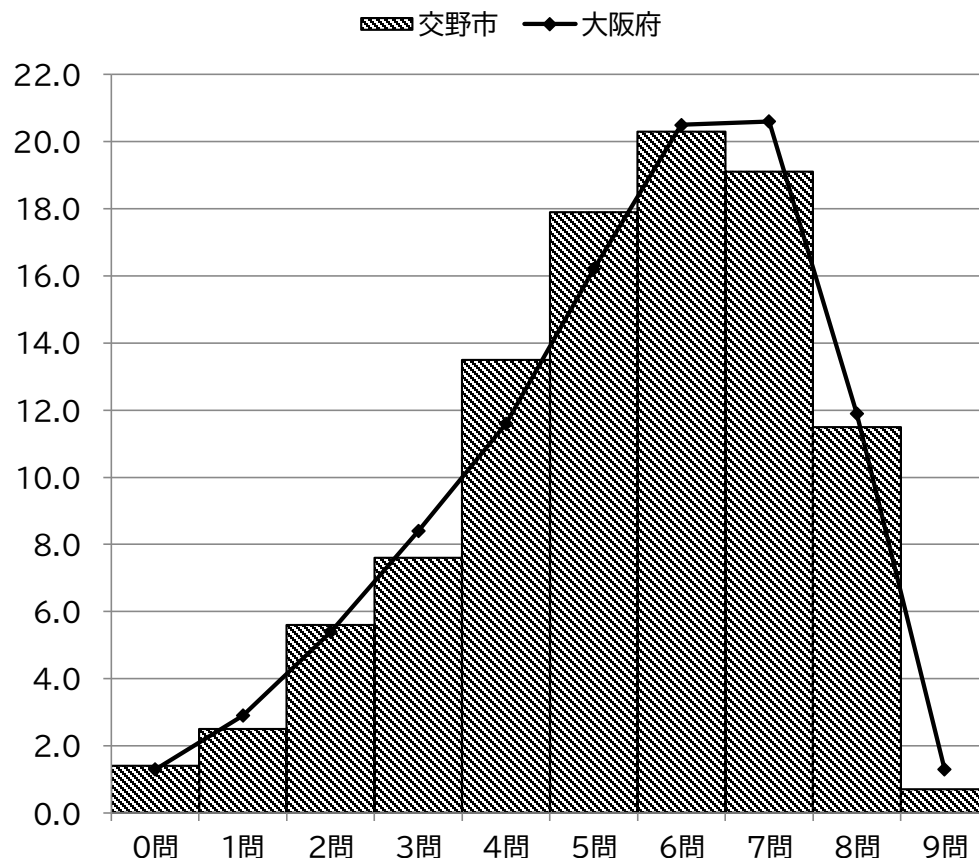
直列つなぎの特徴を理解し、そのつなぎ方を図で表現することに課題が見られた。状態とそれを表す言葉を結び付けて理解する必要がある。

わくわく問題(5年生)

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			交野市	大阪府
全体		9	59.3	60.0
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。	3	49.1	48.7
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち伝える。	2	63.0	62.9
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事からを考える。	2	73.6	75.7
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。(プログラミング的思考)	4	61.1	63.1
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	1	75.3	78.3
問題をとらえる	文章から読み取る	7	57.8	57.9
	会話から読み取る	4	61.3	62.9
	図や表から読み取る	8	57.2	57.7
伝える	資料の情報を整理して伝える	6	61.2	61.1
	自身で考えたことを伝える	4	65.0	67.0
	理由や根拠を明確にして伝える	3	50.2	52.6
問題形式	選択	2	43.7	43.7
	図表	1	66.2	63.0
	記述	6	63.3	64.9

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

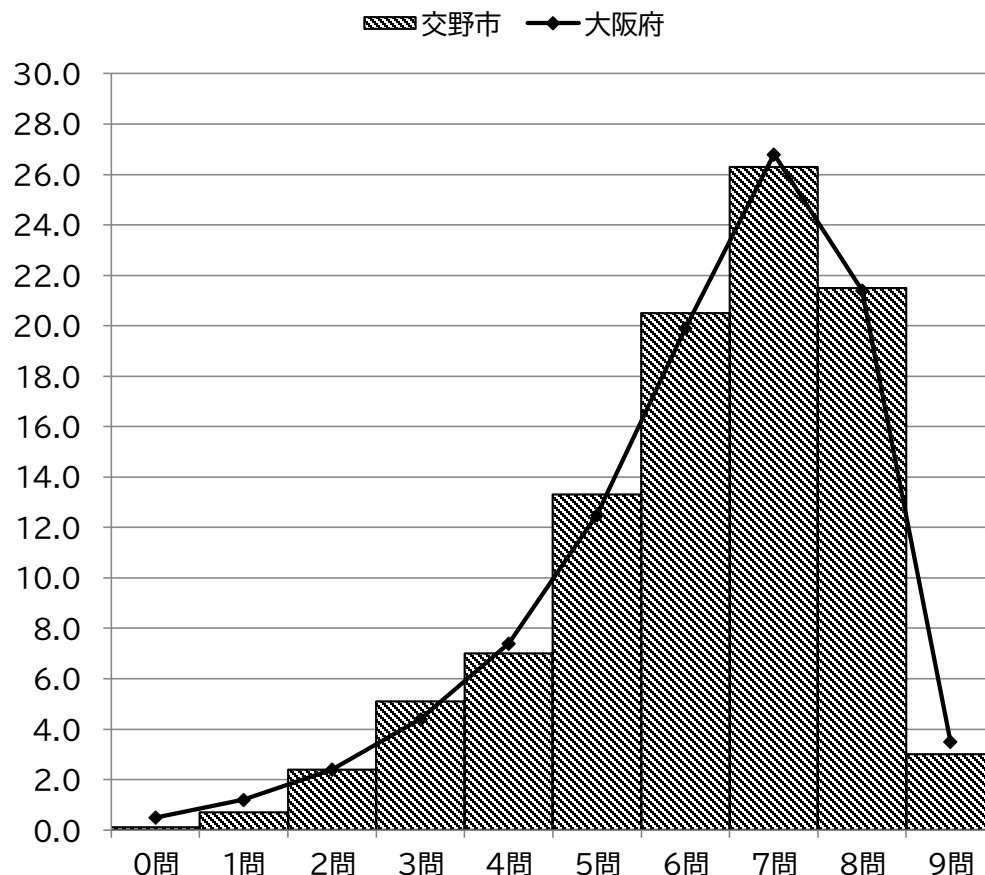
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
交野市	592	5.3	59.3	6.0	1.9
大阪府	67,425	5.4	60.0	6.0	2.0

わくわく問題(6年生)

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			交野市	大阪府
全体		9	69.1	69.0
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。	3	56.4	56.0
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち伝える。	2	75.4	73.9
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事からを考える。	2	84.7	83.1
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。(プログラミング的思考)	4	72.5	73.1
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	1	86.8	86.9
問題をとらえる	文章から読み取る	7	66.2	66.5
	会話から読み取る	4	73.1	73.9
	図や表から読み取る	8	66.8	66.8
伝える	資料の情報を整理して伝える	6	69.7	68.9
	自身で考えたことを伝える	4	75.4	76.3
	理由や根拠を明確にして伝える	3	63.8	65.0
問題形式	選択	2	49.5	49.3
	図表	1	75.6	73.8
	記述	6	74.5	74.8

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)



※1つの問題が複数の区分に該当することがあります。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
交野市	669	6.2	69.1	7.0	1.7
大阪府	68,333	6.2	69.0	7.0	1.8

わくわく問題(5・6年生) 課題の見られた問題

2 (3) 出題の意図 先進技術の中でも身近なものになりつつある自動運転車を取り上げ、論理的思考力を問うとともに、複数の資料を関連させながら読み取る中で、技術と生活との関係に対する知識や関心を持つことを目的とした問題。

資料1 【「自動で動く車」の分類について】

「自動で動く車」は、運転の一部を車が助けてくれる「運転を支援する車」と、すべての運転を車が行う「自動運転車」の大きく2つに分かれます。

		内容
自動で動く車	運転を支援する車	アクセル※、ブレーキ、ハンドル操作のうち、一つまたは、複数車がを行う。 【例】 ・前の車にぶつかりそうなどにブレーキ操作を自動で行う。 ・高速道路で、車線の中央を走るようにハンドル操作を自動で行う。 ・高速道路で、一定の速さで走るようにアクセル操作を自動で行う。
	自動運転車	すべての運転を車が行う。 ただし、高速道路など特定の場所でしか自動運転ができないなどの条件がある車もある。

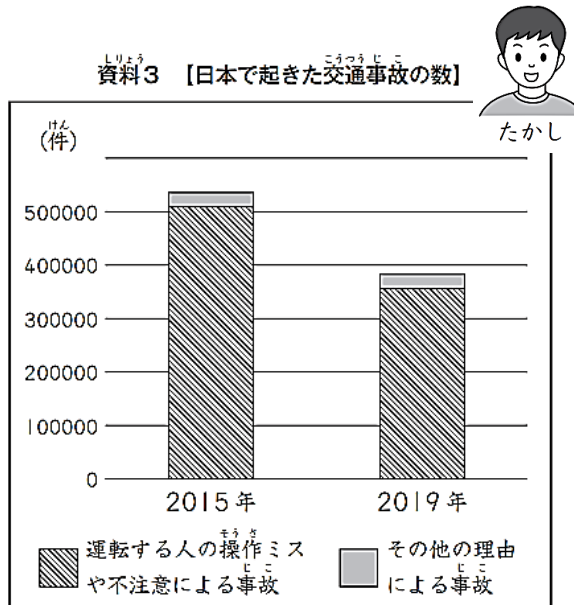
※アクセル…ペダルをふむと車が加速する装置。

資料2 【日本で一年間に生産される「自動で動く車」の台数】

	2015年	2019年	2025年 (予想)	2030年 (予想)
運転を支援する車	265万台	535万台	886万台	756万台
自動運転車	0台	0台	4万台	83万台

(富士キメラ総研「車載電装デバイス&コンポーネンツ調査」により作成)

資料3 【日本で起きた交通事故の数】



(警察庁交通局の資料により作成)



たかし

資料1、資料2、資料3から考えると、日本で「自動で動く車」が増えていけば、交通事故の数がさらに減るかもしれないな。

【問い】

たかしさんが、_____部のように考えたわけを、資料1、資料2、資料3をもとに考えて書きましょう。

【正答例】

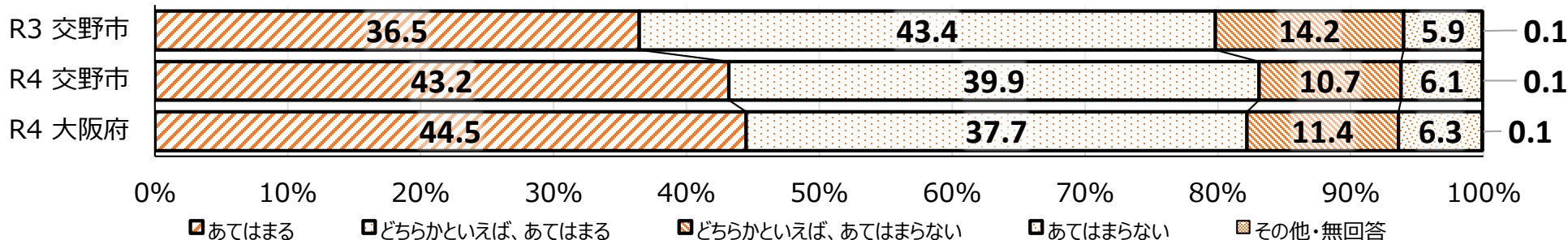
2015年から2019年で「自動で動く車」は増えていて、交通事故の件数は減っている。「自動で動く車」が増えると人による操作ミスが減ると思うので、「自動で動く車」が増えると交通事故が減ると考えたから。

	交野市(%) 【5・6年生】	大阪府(%) 【5・6年生】
正答率	41.2	44.5

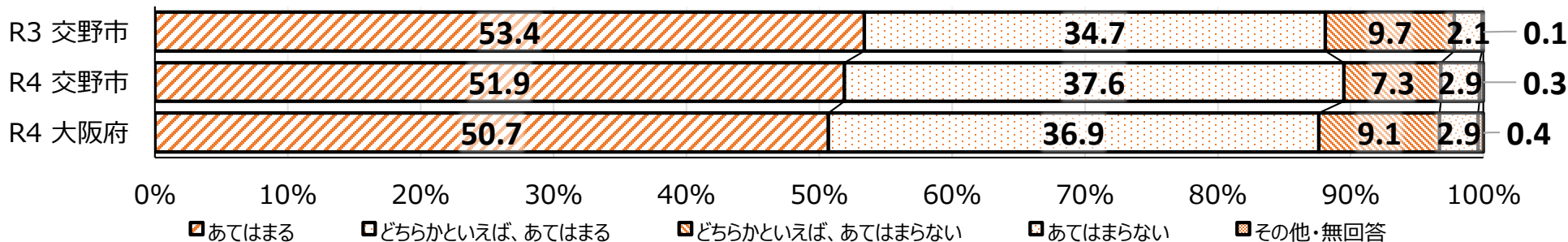
複数の情報を整理し、読み解くことに課題が見られた。表やグラフを見るときは、何について表した資料なのかを考えることが必要である。

良好な結果が見られた項目(5・6年生)

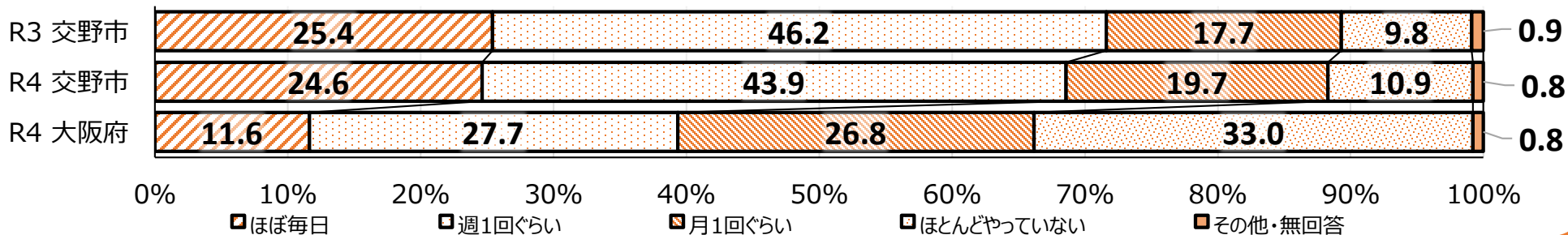
■ 「自分にはよいところがある」と思う



■ 先生は、あなたのよいところを認めてくれている

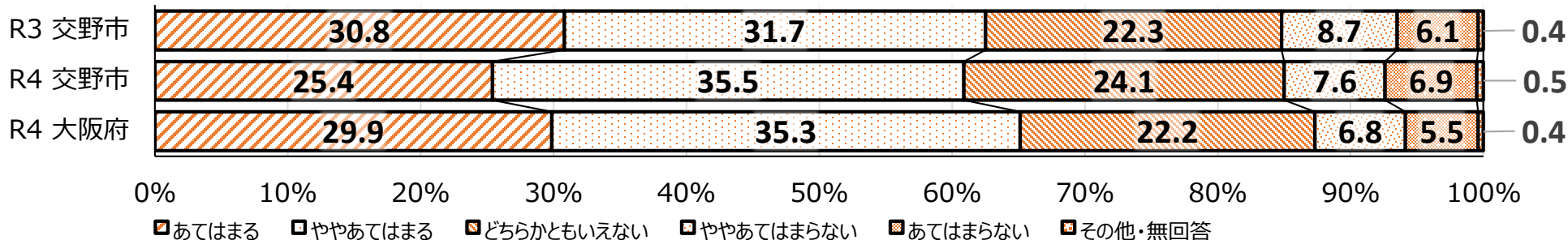


■ 授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交流したりすることはどれくらいありますか

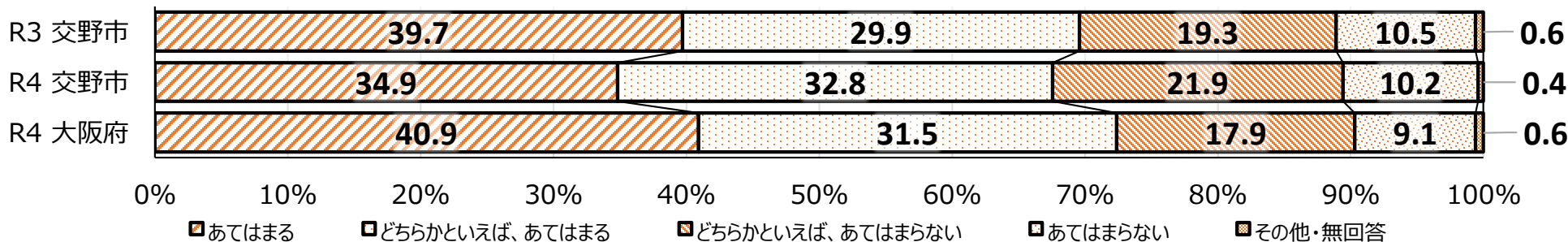


課題が見られた項目(5・6年生)

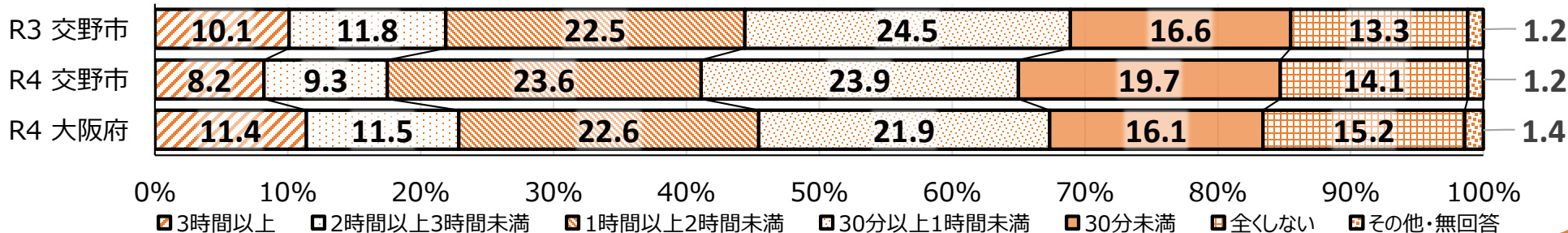
■ 自分と違う考え方の人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているかをわかろうとする



■ 先生や友だちが話していることで、大事だと思ったことをノート等にも書いている



■ ふだん(月曜日から金曜日)1日に、学校の授業や宿題以外に、およそどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)




主な課題


- 国語(5年)** 「我が国の言語文化に関する事項」では、ことわざや故事成語の定着に課題が見られる。
- 算数(5年)** 「図形」領域で筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を考え、説明することに課題が見られる。
- 理科(5年)** 全般に、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、それらを日常生活に関連付けて理解したり、実験・観察等から見いだした規則性や関係性を考察したりすることに課題が見られる。
- わくわく(5・6年)** 「理由や根拠を明確にして伝える」項目で、複数の情報を整理し、読み解くことに課題が見られる。
- アンケート(5・6年)** 他者の意見について深く考えたり、大事だと感じたことをノート等に記録したりする割合が減少している。また、学校の授業や宿題以外の学習時間が短くなる傾向にある。

改善のための方策

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の定着

- 
- 学習をとおして習得した基礎的な知識・技能について、各教科、特に理科において、日常生活とのつながりを考えさせるような場面を計画的に繰り返し設定し、定着を図ります。
 - 市が指定している「学力向上モデル校」において、学力向上に効果のあった取組みや先進的な授業等の好事例を全市立小学校へ発信し共有することで、授業の改善を図ります。
 - 各学園（中学校区）で共有している「家庭学習の手引き」等を活用し、家庭の協力を得ながら義務教育9年間のゴールを見据えた学習活動を推進し、子どもが自ら学習する意欲や態度を醸成します。

(2) 各教科における質の高い言語活動

- 
- 全校に配置した「学びあいサポーター」を活用し、各教科において、判断と根拠、結果と原因の関係を明確にして表現する等の力を身に着けるために適した言語活動を設定し、「理由や根拠を明確にして伝える力」の育成に努めます。
 - 小学校に配置した高学年の専科指導教員や、中学校教員による小学校高学年での教科指導を充実させ、自力解決のみならず、他者との意見交流をとおして深く考えたことを記録する等の指導方法の工夫・改善を図ります。